

(前文略)

卒業生の皆さん。卒業おめでとうございます。これまでも、皆さんは「先行き不透明な時代」と言われ、たくましく生きるために、自ら考え、自ら判断し、主体的に行動できるように、と言われ続けてきました。このことは、「言うは易し、行うは難し」で、大変困難な課題であります。皆さんの人生の節目たる今日の卒業式で、ある意味、その不透明さが具現化したとも言えるでしょう。想定外の事態を受けて、思考停止したり、当事者意識を持たずに評論家然としたりすることなく、私たちは自分事として、与えられた条件の中で最適解を求めなければなりません。そのためには、自分一人の狭い価値観だけで判断するのではなく、それぞれが当事者意識をもちつつ、他者と協働して集団としての最適解を求めるプロセスを地道に積み重ねていくことが大切です。

卒業する皆さんは、そのために必要なかけがえのない出会いに、この伊勢高で恵まれました。伊勢高で得た出会いを大切に、これからの社会の担い手として、自らの強み・弱みを自覚し、他者の強み・弱みを受け入れて、お互いをリスペクトしつつ、よりよい社会を築いていってもらいたいと願っています。

結びに、私が困難な状況に立たされた時に、自分に言い聞かせている言葉を送ります。

「神は耐えられない試練を与えることはない。」

この言葉には続きがあります。

「神は試練に耐えられるように、逃れる道も用意している。」

「先行き不透明な時代」だからこそ、皆さんには、試練を乗り越えた先に、明るい未来を創りだせる可能性が与えられています。そして君たちにはそうすることができる力があります。君たちがいる限り、未来は明るい信じることができます。

本日、こうして卒業生の門出を迎えられましたことを、保護者の皆様とともに喜び申し上げるとともに、卒業生の皆さんの健康と、輝かしい前途を祈念して、式辞といたします。卒業おめでとう。

令和二年 三月 一日

三重県立伊勢高等学校長
眞崎 俊明